

芦屋市水道事業経営審議会意見書

平成25年12月18日

芦屋市水道事業経営審議会

平成25年12月18日

芦屋市長 山中 健 様

芦屋市水道事業経営審議会
会長 政岡 勝治

「芦屋市水道事業経営のあり方」について（意見書）

芦屋市水道事業経営審議会は、平成25年2月16日付け「芦屋市水道事業経営のあり方」について検討依頼を受け、上下水道部より提出された、芦屋市水道事業についてのさまざまな資料、芦屋市水道ビジョン（案）そして阪神水道企業団から入手した資料を慎重に審議をした結果、次のとおり意見書を提出します。

記

水道事業は、平成23年度から平成37年度まで兵庫県住宅供給公社からの毎年約1億2,000万円の水利負担金収入を特別利益として計上できることにより、当面は厳しい決算は避けられる見通しである。しかしながら、平成24年度の決算で、1m³当たりの水道水供給単価167.05円に対し給水原価191.45円と、基礎収益面ではマイナスを示している。このため、これまでに以上に経営のスリム化を目指していく必要がある。

1 次期財政計画（平成26年度～29年度）について

当審議会は、次期財政計画期間を含む将来の課題として、以下の点を挙げておきたい。

① 阪神水道企業団への未取水による過払いについて

ア 阪神水道企業団（以下「阪神水道」という。）の受水費は、阪神水道が責任水量制を採用し、芦屋市が申し込みをした配分量に基づいて費用負担しているとのことだが、平成22年度まで毎年約1億2,000万円以上あった阪神水道への過払額は、構成市間で配分量の調整が整い、平成23年度からは毎年約7,000万円と削減されたことを評価

する。しかし、この過払額約7,000万円は水道事業収益約20億4,700万円の約3.5%を占め、収益性を圧迫している。さらに、費用負担方法の見直し等過払額を削減するように阪神水道との交渉継続を願いたい。

イ 今後の未取水による過払いについては、固定費部分と変動費部分を精査し、変動費を除いた分を支払えないか、阪神水道と交渉願いたい。

- ② 平成24年度芦屋市水道事業損益計算書では、支払利息が約7,800万円あり、これは水道事業収益の約4%を占める。支払利息を少しでも下げするために、高金利の借入金で繰上償還できるものは、積極的に実行に移していただきたい。

2 審議会での主要な指摘

以下、今回の審議会であった主要な指摘を列挙する。今後の水道事業経営に参考にするとともに、必要に応じ検討を願いたい。

① 水道事業に係る技術継承

水道事業はスリムな維持管理体制を目指し、平成元年度の人員58名から近年を見ると、平成21年度38名、平成23年度45名、平成25年度43名と、スリムな維持管理体制を目指してきたことを評価する。一方で、今後とも芦屋市の水道事業経営のための技術、経験の継承に齟齬が無いよう、庁内の若手職員の人事交流・育成が必要であると考えます。

② 水道事業に対する市民の関心を高める

水道事業のホームページでは、水道事業の現況、課題、取組、また市民からの意見等が公表されている。しかし、インターネットに不慣れな方もおられ、ホームページに加え、「広報あしや」にてもきめ細かい情報発信をして、より多くの市民の関心を高めるよう努力いただきたい。

③ 管理会計と評価システムの推進

第4回審議会資料6によると、平成18年度から平成41年度までの施設更新等費、施設耐震化費、老朽管更新費、調査・事務費など水道整備費用の総額は約136億円と見積もられている。例えば、毎年これら水道整備費用を5%削減するだけでも平成41年までに総額7億円以上の削減が行える。このため、将来的に、整備費の予実管理を毎年行うなどの管理会計を導入し、さらに、目標達成に応じ担当者を評価するという評価システムの導入を検討願いたい。

④ 市民への状況説明会の開催

平成21年度の審議会で経営努力の遂行状況等を市民が客観的に判定できるように審議会委員に対して年1回程度の状況説明会を開催して欲しいとの意見があり、これが毎年実行に移されてきたことを評価する。次回の状況説明会に関しては、特に、今回の審議会では詳細未定のため説明が見送られた平成26年度から適用を予定している改正地方公営企業会計での決算見通しを述べていただきたい。改正地方公営企業会計に則り経理処理を行うと、実質的には財政状態に変化はないが、累積欠損金は帳簿上解消される見通しとのことである。この点、改正後の基準によった場合、財政状況、経営成績にどのような影響を与えることになるのか詳細かつ丁寧な説明を願いたい。

芦屋市水道事業経営審議会審議経過

会議区分	開催年月日	審議内容
第1回 経営審議会	平成25年 2月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会長等の選出 ・ 芦屋市水道事業の現況 ・ 前回審議会の概要 ・ 前回審議会以降の主な取組み
第2回 経営審議会	平成25年 3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道施設現地見学 <ul style="list-style-type: none"> ① 市内施設 ② 阪神水道企業団施設
第3回 経営審議会	平成25年 6月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市水道ビジョンについて <ul style="list-style-type: none"> ① 芦屋市水道事業の現状と課題 ② 市民アンケート結果報告
第4回 経営審議会	平成25年 7月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市水道ビジョンについて <ul style="list-style-type: none"> ① 目指すべき方向性 ② 将来像実現のための施策と目標
第5回 経営審議会	平成25年 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市水道事業経営のあり方について
第6回 経営審議会	平成25年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見書について

芦屋市水道事業経営審議会委員名簿

(敬称略・五十音順)

選 出 区 分	氏 名	職 業 (役 職) 等
知 識 経 験 者	小 湊 雅 子	弁護士
	○西 尾 宇一郎	関西学院大学 経営戦略研究科教授 公認会計士
	◎政 岡 勝 治	芦屋大学 経営教育学部教授
	矢 野 和 久	大阪ガス株式会社 執行役員 兵庫地域総支配人
市 民 代 表	金 岡 昌 彦	市民公募
	金 木 友 子	芦屋市PTA協議会 副会長
	北 村 佳 子	芦屋市自治会連合会 理事
	島 津 久 夫	芦屋地方労働組合協議会 議長
	津 川 雅 勇	市民公募
	野 島 さゆり	芦屋市コミュニティ・スクール 連絡協議会 副会長
	嶺 山 洋 子	芦屋市商工会 女性部長
	安 井 京 子	芦屋市消費者協会 理事
市 職 員	山 本 靖 博	総務部参事 (財務担当部長)

会長 … ◎ 会長職務代理者 … ○

芦水管第A130号
平成25年2月16日

芦屋市水道事業経営審議会
会長 政岡勝治様

芦屋市長 山中健

本市水道事業経営のあり方について（依頼）

本市の水道事業は、昭和13年4月1日に給水人口50,000人、1日最大給水能力8,250立方メートルの水道事業として給水を開始し、まちの発展に伴う人口の増加や市域の拡大に対応するために7期にわたる拡張事業を実施し、現在では、給水人口98,600人、1日最大給水量41,800立方メートルの水道事業として、市民の皆様に「安心、安定」「持続」ある水道水の供給に努めています。

給水開始から今年で75年目となり、普及率100%となりましたが、昭和30年代から40年代の高度成長期に布設した配水管などの水道施設が老朽化し更新時期を迎えており、今後、それらの老朽化施設の更新や耐震化に要する費用の増加が見込まれています。

さらには、景気の長期低迷、節水機器の普及、節水意識の向上等により一人一日当たりの有収水量が減少していることや、家屋新築による分担金収入の減少等から、依然、4億円以上の累積欠損金があり、水道事業経営は引き続き厳しい状況が続くと考えています。

しかしながら、阪神水道企業団の配分水量の調整による受水費の軽減や県住宅供給公社からの水利負担金の確保などの好転材料に加え、水道事業経営のより一層の改善に努めることにより、平成22年度から平成25年度の今期財政計画期間に引き続き、平成26年度から平成29年度での次期財政計画期間においては、現行料金体系を維持したいと考えています。

累積欠損金を抱えたまま、厳しい水道事業経営が見込まれますが、審議会委員の皆様には、本市水道事業経営のあり方についてご議論いただきますようお願いいたします。

以上